



西幼だより

羽島市立西部幼稚園
令和6年5月14日 No. 3
園長 安藤賢治

“少人数”を生かす ～異年齢交流～

◆今年の園児数は、34名（6月には、プラス1名）減少傾向が危惧されますが、少ないからこそという『ここにいる子らの今！を最大限に活かすこと』を大切にしていきます。

・・・昨年から、日常的によく見るようになってきている様相の一つが「異年齢での交流」です。



な→た)プレゼント「歓迎会」 やりたい遊びのある教室へ

◎年度末【園評価】 振り返る窓があります。

・幼稚園は、園児が同年齢や異年齢の友達と関わって遊べるよう、熱心に指導・援助していると思うか。

「リレー やりたい！」職員も一緒に

← 評価は、4.6（5点満点中）でした。

<遊びの発達段階(順番)>

*「遊び」の分類(by 発達心理学者 M.B.Parten)より

- 1 何もしない行動（何もせずぼんやりし、興味があるものが見えれば見る）
- 2 ひとり遊び（自分の遊びに熱中する。玩具の取り合い以外は他の子と関わらない）
- 3 傍観者行動（他の子の遊びを傍観し、口出しすることはあるが、遊びに加わりたくはない）
- 4 平行遊び（皆と同じ遊びをするが、平行して展開する。子供同士の関わりは見られない）
- 5 連合遊び（遊びの中で子供同士のやりとりがある。道具の貸し借りなど）
- 6 共同遊び（子供同士と一緒に遊びながら、役割分担し、ひとつの遊びを展開する。ルールも取り入れ、話し合いもできる。）



>これは、あくまでも発達モデルのひとつで、発達も、個人差が大きいものです。

「遊びに夢中になっている」のは、その子が「発達している瞬間」といえます。

※幼児期にこそという、“コミュニケーションの芽”“社会性”も育てていきます。

◆幼稚園では・・・

『目の前の子』の“今！”をしっかりと受け止めて、何を思っ て 何をしたがっているかなど、周りの様子も感じ取りつつ、一緒に「遊び」に向かっています。

もちろん、その時の感覚でという場合もありますが、軌跡を点でなく、線、そして面、立体となる様、その子の発達をつなぐ創造といえる支援に努めていきます。

